

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100487		
法人名	株式会社 育成		
事業所名	グループホーム育成会 長生の望・灯・楽 (望 ユニット)		
所在地	釧路市大楽毛南4丁目6番8号		
自己評価作成日	平成23年3月1日	評価結果市町村受理日	平成23年5月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0174100487&SCD=370
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成22年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にも謳っている通り、入居者にとっての安心できる環境を提供し、その人らしいあたり前の生活が送れるように努めてまいります。また、地域の方々との交流を大切にして、地域の中で孤立した場所にならないように、より地域と密着したグループホームを目指していきたく思います。今後も、町内会をはじめ様々な機関と連携を図り、入居者の尊厳や権利を損なわない環境作りに努めてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人間として、尊厳や権利を損なわず、家庭的な環境と地域住民との交流の下で共同生活を安心して暮らせるように努めます。」各ユニットや正面玄関に掲示しています。また、毎朝の申し送りの際に理念の唱和を行い周知、実践に活用しています。また、入職時のオリエンテーションにて、理念の配布と説明をしております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	契約時や面会の際などに、ご家族へ理念の説明を随時行っており、地域の方々にも、行事や会食の場で行い、ご理解を得られるようにしております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	時折、地域の方のご家族の中に、在宅で認知症をケアしているケースがあり、ホームの対応の仕方を相談に来られる事があります。その場合は、職員でわかる事を助言して共有し合う事があります。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を開催。町内会、ご家族、利用者、地域包括支援センターの方々のもと、行事報告や利用者状況の他、会議毎に議題を設け話し合いを行い、意見や助言を頂くことで、サービスの向上に活かしております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	支援を行う中で行き詰まりが生じた場合に、市や地域包括支援センターへ訪問または、電話等で相談、助言を頂きながら早期解決、サービスの向上へと努めております。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が身体拘束における具体的な内容を把握しており、学習会や会議の場でも再確認しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。また、施錠する事への弊害を理解し、鍵をかけないケアに取り組んでおり、現在においては施錠することはありません。帰宅願望の強い方に対しても、本人の行く手を塞ぐ事無く職員が同行し、ご本人思い、意向を傾聴しながら、納得してホームに戻るような支援もしております。		

グループホーム育成会(望ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加等で学び、スタッフ会議の中でも情報提供を行っています。スタッフ一人一人の不安や些細な問題点に対しても、スタッフ同士で話し合いながら、ケアの統一、虐待の防止に努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議の中でも、話し合いをしたり理解を深めてはいます。それを活用出来るような機会があれば対応していきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に、サービス内容の説明は十分に行っています。不安や疑問な点についても理解、納得していただけるまで説明しております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で、全ての利用者、職員がサークルになり雑談、意見交換が出来る雰囲気作りをしており、それぞれの思いや不備をケアに反映できるようにしています。また、解決が困難な場合には、ご家族へ報告するとともに、協力を受け早期解決に努めております。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議やケアカンファレンスの際に、スタッフの意見や提案を聞く機会を設けています。定期的及び必要と思われる際に、随時個人面談を行い、スタッフ一人一人の意見、提案を聞き反映しております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験や実績に応じてキャリアパスを設けており、向上心をもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加して頂き、研修内容をスタッフ会議や学習会で他のスタッフに報告して情報を共有しています。また、実際に支援の中で実践し、確認、理解してもらおう事で各ユニットのスタッフのスキルアップの向上に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協会の研修会や交流会等へ参加しています。同業者と交流を図り、改善すべき個所があればスタッフと話し合い、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が関わりある支援事業所等より情報の提供をしていただき、傾聴、受容の姿勢で取り組む事で、ご本人が困っている事、不安な事、求めている事を安心して相談できる態勢や雰囲気作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関わりのある事業所等より情報を提供して頂きながら、ご家族の困っている事、不安に思っている事、求めている事等が相談できるよう傾聴、受容の姿勢で取り組み、十分な説明を行う事で安心してご利用頂けるよう心掛けています。また、気軽に相談できる雰囲気作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人、ご家族にホーム内の見学をして頂き、ホームでの生活と雰囲気を感じて頂き、入居者と一緒にお茶会や談話できるような場面作りを工夫しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活動作の中で、個々の能力を活かした役割分担を行い、料理や掃除の際のちょっとした工夫を利用者の方から教えて頂く事もあります。季節に合った物作りを楽しみ、完成の喜びをともに分かち合うなど、互いに学び支え合う関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、育成通信の配布とともに、定期的な連絡や面会時にはスタッフが日々の様子を伝えると同時に、ご本人の要望をご家族に伝える代弁者となっています。ホームの行事やイベントがある際には、ご家族にご案内させて頂き、ご家族と過ごす時間が図れるように働きかけております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームでの御様子をお伝えするとともに、お互いの情報交換を行うことで理解を深め、ご本人とより良い関係を築いて頂けるよう支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	入居者が互いに助け合い、優しい言葉を掛け 合ったり、いたわっている姿が多く見られ、職 員は入居者同士の支え合いを継続できるよう 支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係 性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経 過をフォローし、相談や支援に努めている	外出先でお会いした時など声掛けし、ホーム に立ち寄って下さるようお伝えしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討してい る	個々の信頼関係作りに努め、日々の会話の中 からご本人の思いを傾聴したり察する事 で、その思いや意向が叶うように努めていま す。また、把握が困難な場合には、ご家族か らの情報を頂き、スタッフで話し合いを行いな がら、その方の行動や表情の中から、思いや 意向を感じ取る努力を行い、本人本位の介護 計画を作成し、ご支援に努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め ている	ライフヒストリーやセンター方式の活用、ご家 族や関わりのあった支援事業所からの情報 の提供を頂き、サービス利用経過の把握にも 努めています。居室には馴染みの物を持ち込 み、住み慣れた環境作りに努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	個人日誌を活用し、日々の生活の中での体 調の変化や表情、言動に留意しながら、現状 の把握に努めています。常にスタッフ間で情 報交換を行いながら、その人なりの穏やかな 生活を過ごして頂けるよう支援しております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それ ぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介 護計画を作成している	3か月及び変更が必要な際には、その都度ケ アカンファレンスを行い、介護支援専門員がご 本人、ご家族の意向に添った介護計画を作 成、ご家族に説明及び承認の後、捺印を頂い ております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個 別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践 や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を記入。状態の変化や言動、 対応等を記載し、スタッフ間で共有していま す。また、ご家族が閲覧することも可能。		

グループホーム育成会(望ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族やご兄弟との外出や外泊、病院受診など、ご家族が対応困難な場合は、職員が受診対応の支援しています。ご本人の意向、要望によっては買い物やドライブ等も実施しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	災害や火災など、必要に応じて消防や地域の方との連携、協力をお願いしています。また、外部徘徊等の対策として、SOSネットワークとの連携、地域の皆様のご協力をいただきながら、支援に努めております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の利用者のご家族と連携を図りながら、かかりつけの病院へ定期受診及び特変時の受診対応を行っています。ご家族が受診同行の際には、経過状況報告書と健康管理票(バイタルチェック表)を作成しご家族に持参して頂き適正な医療を受けられるよう支援に努めております。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護師の来設の際には、日常生活の状況及び治療経過の報告や相談をし、一人ひとりのご様子を見て頂きながら、日常生活上の指導を受ける事で健康管理の支援に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、ご家族の負担軽減の為、連絡を常にとりながら定期的に訪問し、必要な物品の準備と衣類の洗濯、交換の実施。治療状況や治療方針について、看護師やソーシャルワーカーとの情報交換や相談に努めています。退院後の安定した受け入れ態勢が整えられるよう、スタッフへの情報共有も常に行っております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医や訪問看護師の協力の下、重度化や終末期に向け、ホームとしての「できる事、できない事」を見極め、チームとして優しく実践しております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の緊急マニュアルを作成し、常に職員が早期対応出来るように、学習会、会議の際に対応方法を確認している。2009年より、AEDを設置。使用方法も講習し、分かりやすい使用方法のマニュアルも常備しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議において、町内会役員の方に災害時におけるの協力をお願いしております。また、消防訓練の際に一番安全と思われる避難方法、避難場所について、ご指導頂き職員すべてに周知しております。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格を尊重し自尊心を傷つけないよう、真心で接するように努めています。また、個人情報については事務所内の書庫にて保管、管理しております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	安心できる環境作りを心掛け、日々の会話の中で何を思い、何を求めているかを受容しています。個々に合わせて説明を行いながら、ご自分で決めたり、納得してもらいながら、その人なりに暮らせるよう自己決定の支援を行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家族のような雰囲気大切に、ご本人のADLに添った思いや希望を優先して「出来た」「楽しかった」と喜びを共感し合える支援をしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容に関しては月に1度、専門の方に訪問して頂いています。ご本人の希望がある場合は、外出して馴染みの美容室へ行っています。また、整容の乱れなど、ご本人の自尊心を傷つけないよう、さりげない誘導、声掛けで整えられるよう心掛けております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	器や盛り付けなどに気配りし、見て楽しみ、味わって喜ばれる調理の工夫に努めています。残存能力を活かした役割分担を行い、食事の準備や後片付けなどスタッフと一緒にしております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特にカロリー、塩分など、食事に関しては全体的に薄味として、本来の素材の味を活かしながら、調理の工夫に努めています。また、水分摂取に関しては個々の管理を徹底し、訪問看護師の助言を頂きながら、一日の必要量を摂って頂けるよう支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施。介助が必要な方には、義歯洗浄後の介助を支援しております。		

グループホーム育成会(望ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの表示を工夫する事で明確にし、排泄チェック表により、個々の排泄リズムを把握しながら、さりげなく誘導できるよう支援に努めております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄、排便表をつけており、便秘気味の方には、特に水分摂取の声掛けを行い、排便困難な際にはかかりつけ医に相談して、便秘薬を服用する事もあります。また、日頃より食事の献立に食物繊維を多く含む食材を取り入れるなど工夫をしながら、日常生活の中で歩行運動など身体を動かす働きかけも行ってまいります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	家庭と同じ一人用の浴槽を使用。個々の入居者に合った椅子やマットなどを使用し、リラックスできるよう入浴剤を使用して、週2~3回の入浴を支援しております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常の活動を促しつつ、自由に休息して頂けるよう配慮に努めています。昼夜逆転防止にも心がけ、一人ひとりの生活習慣に応じながら、その人なりに安心して気持ち良く休息、睡眠が出来るよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬ケースがあり、日々の服薬に関しては日付、時間に配慮して手渡しにて確認。処方箋の確認を怠らず、診療報告書に目を通し、特に薬の変更時は伝達の徹底に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を通して、ご本人が達成感を得られるものを提供し、周囲から褒められ認められる喜びを感じられる事で、張り合いの持てる生活が維持されるよう支援しております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族宅へ外泊に行かれたり、外食など楽しめる機会があります。また、ご本人が希望される時は、選挙の投票へ行く支援も行っています。生きがい手帳を活用し公共施設等へ見学へ出掛ける支援もしております。		

グループホーム育成会(望ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族と相談し合い、現金に関してはご自身で保管するのではなく、事務所内の金庫で管理しております。但し、ご本人の希望で購入品がある時、また、病院通院時には所持して頂き、ご自身の手から支払いをして頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族に近況報告等を電話または、お手紙でやり取りしています。普段から、ご家族へ電話を希望する方には、その都度職員が電話を取り次ぐなど支援しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下など共有する空間には、入居者、スタッフが共に手懸けた作品を飾り、また、季節の花や小物などさりげなく飾っています。共同空間の掃除の際には、事前に声掛けしてから掃除機、洗面台の掃除など行っております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓とは別に、ソファが2か所設置されており、お好きな場所で入居者同士がサークルになり活用されております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しいものではなく、ご本人が好みの物、馴染みの物をご用意して頂き、ご本人が心地よく趣味などを楽しめるような生活をして頂けるよう工夫しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を活かし、「出来る事」「出来ない事」を見極め、見守りの中でさりげない援助を行うなど、混乱や失敗を未然に防ぐ事で、一人ひとりの自信につながり、笑顔で暮らせるように支援しております。		